

資料6

会長スピーチの心得

毎回のクラブ例会の最初の行事「会長スピーチ（会長挨拶、会長の時間）」には、そのクラブ独自の傾向や雰囲気があるようです。年度が変わって新しいクラブ会長になれば、当然、人が変わったわけですから「会長スピーチ」にも少しは目新しさが出てきます。それでも、そのクラブの伝統や慣習のせい、会長が話す内容にはクラブ独自の傾向があるということです。

そうは言っても、山形県内の各クラブを訪問すると分かると思いますが、どのクラブの「会長スピーチ」にしても、全体としては山形県らしい傾向があるように思います。それだけに、他の都道府県のクラブを訪問すると、「会長スピーチ」の内容が山形県内のクラブとはかなり違うことに驚かされるのです。

もちろん、県内各クラブの「会長スピーチ」が良いとか悪いとかを言いたいものではありません。むしろ、温かみと慎みがあって、出過ぎたことは言わない。それでいて語るべきことは語るという山形県らしい「会長スピーチ」は、個人的には好きです。

しかし、「会長スピーチ」の効用という点では、物足りなさを感じることも確かです。つまり、せっかくの機会なので、クラブの活性化に大いに繋がるように、少なくとも繋げたいというクラブ会長の心意気が大いに感じられるように、「会長スピーチ」にもっと工夫と配慮があってもよいように思うのです。

以下、「会長スピーチ」の心得とでも言うべきことについて、列挙いたします。

- ① クラブ会長の人柄(特に誠実さと責任感と熱意)こそ、会員の頑張りやクラブ活性化に最も繋がるものであり、そのための最大の武器は会長スピーチであることを銘記する。
- ② 会長スピーチのテーマは、「①感動的な話、②役に立つ話、③ロータリー情報」の3つに絞り、毎回、会員が「来てよかった」と思うような内容を心がける。
- ③ 会長スピーチの原稿は、1分300字を目安とする。接続語の使い方に留意し、起承転結または序破急の組み立てを原則とする。
- ④ 会長スピーチは、声の大きさ・スピード・抑揚、喋りの間(ま)、視線や表情などによって伝わり方が大きく異なるので、毎回、それらに留意した事前練習を心がける。

下記3人のクラブ会長時代の「会長スピーチ集」を掲載いたします。地区も異なれば、人柄や考え方も異なる3人ですから、スピーチの内容もかなり違います。参考になれば幸甚です。

1. 鈴木一作（2009-10 寒河江RC会長）：2800 地区パストガバナー
2. 坂東隆弘（2016-17 柏原RC会長）：2680 地区青少年奉仕委員長
3. 成川守彦（2017-18 有田RC会長（2度目の会長））：2640 地区パストガバナー

（年度順、敬称略）